

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 千代 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

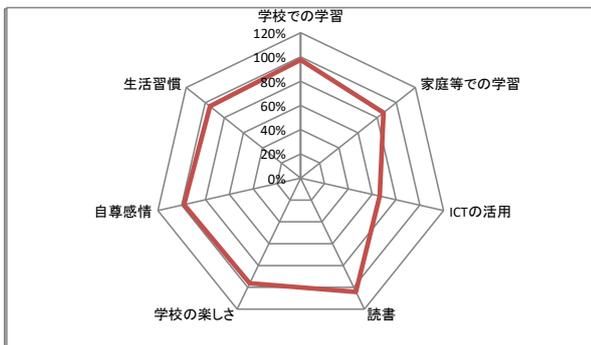
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	話すこと・聞くことに関する問題の正答率は全国平均と同程度である。言葉の特徴や使い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項の問題が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	漢字を文の中で正しく使う問題、漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題の正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	データの活用の領域が全国平均を上回っている。図形、変化と関係の領域が全国平均を下回っている。全体的に無回答率が全国平均よりも高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断する問題の正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「生命」を柱とする領域が全国平均を上回っている。「粒子」を柱とする領域が全国平均を下回っている。思考・判断・表現について問われる問題の正答率が全国平均と同程度である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつ問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	実験器具の名称を理解し、正しい扱い方を身に付けているかを問う問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間等になっていた」と思っている児童が多い。しかし、授業中のICTの活用が不十分である。目的や活動内容等に合わせ、PCやタブレットを活用した授業を推進していく必要がある。「友達と協力するのは楽しい」「人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童の割合が高い。友達とお互いに認め、よさを伝え合うことにより自尊心が高まってきている。</p> <p>学校以外での学習時間が、平日は1時間以上、土日等は2時間以上と答えた児童の割合が全国平均よりも低い。継続的な家庭への啓発、子ども達への支援が必要である。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

児童が考えを深め・広げ・課題解決につなぐような学習ができるよう、学校全体で取り組んでいく。また、ICTサポーター等を活用し、各学年の発達段階に応じたPCやタブレットを活用した授業を推進していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

自学の取り組み方を書いた「がんばろう家庭学習カード」、すばらしい自学を紹介したり表彰したりする「自学掲示板」「自学ノートコンクール」を継続して行い、児童の家庭学習への意欲を高めていけるようにする。